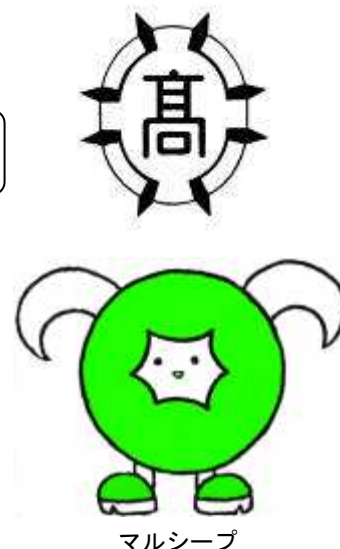
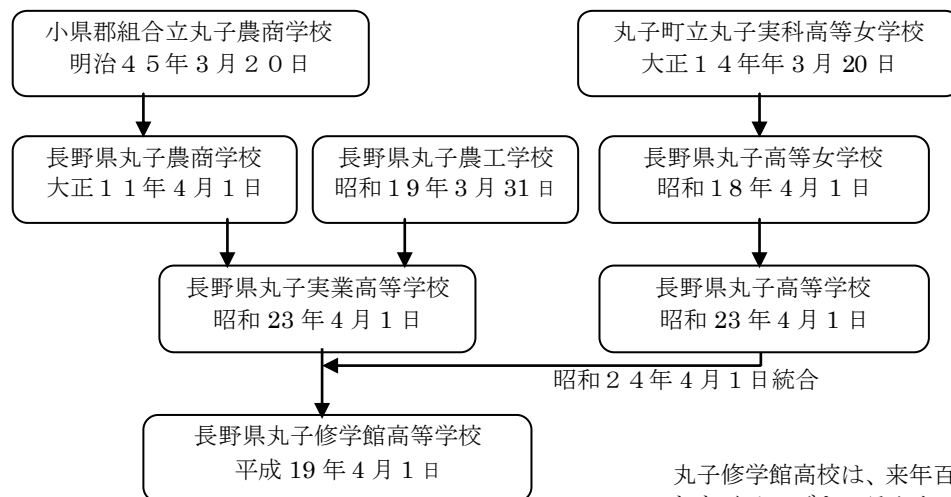


一人ひとりの夢をかたちにする教育へ

丸子修学館高校のキャリア教育について

1 学校の沿革



丸子修学館高校は、来年百周年を迎えます。これを機につくられたイメージキャラクターがマルシープ。

自分の未来を形にすべく集まった、総合学科生をイメージした、夢見る子ヒツジ。カラダの形は、丸修の「丸」とかけて、羊のやわらかさを大胆に丸で表現。やわらかで弾力性のある発想をもって未来をつくってほしいとの願いが込められている。
(デザイン／2期生の岩間由夏さん、大井香苗さん)

2 教育目標・教育理念

(1) 教育綱領 ① 質実剛健 ② 自主創造 ③ 温雅協調

(2) 教育目標

総合学科の特性を生かし、自らの将来設計に意欲的に取り組み、自己の能力を高めることのできる人間の育成を目指す。そして、豊かな感性と深い知性を持ち、社会の発展に貢献できる人間を育てる。

<中・長期的目標>

- ① 生徒自身が自分の能力・適性を発見してそれを高め、自らの将来設計に意欲的に取り組めるよう支援する。
- ② 学習や特別活動等の支援体制を構築し、学習とクラブの両立を図るよう支援する。
- ③ 自主的・自律的な学校生活を送れるよう支援する。

<今年度の重点目標>

- ① 基礎学力の定着と学力の伸長を図るとともに多様な進路に対応した指導体制の構築を図る。
- ② 規範意識の醸成とマナー、モラルを向上させ一人ひとりが充実した学校生活を送るよう支援する。
- ③ 生徒会・クラブ活動では日常的な取組みを重視し、望ましい集団活動を通して、人間性を高める。
- ④ 地域貢献を進め、信頼され開かれた学校づくりを推進する。

3 生徒数

学 年	1 年			2 年			3 年			合 計		
	8クラス			8クラス			7クラス					
合 計	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計
	158	123	281	133	145	278	129	129	258	420	397	817

4 本校が重視する総合学科の理念

(1) 科目選択を仲立ちとしたキャリア教育と主体的学習の有機的連携

本校が重視する総合学科の理念は、「①将来の職業選択を視野に入れ、自己の将来の生き方・働き方や進路についての自覚を深める教育を重視すること」及び「②生徒の個性を生かした主体的な学習（科目選択による自分の時間割によって学ぶ）を通して、学ぶことの楽しさや成就感を体験させる学習を推進すること」である。総合学科の特色である科目選択（時間割づくり）を仲立ちとして、「①により学習の動機付けを行い、これによって②の主体的な学習を行なう。そのことによって、①の考察がさらに深まり、②の学習がより充実していく」という連鎖を繰り返しながら、目標に向かって階段状を駆け上っていく仕掛けを本校は大切にしている。

したがって、系列の選択ではなく、個々の科目を選択することに力点を置いた時間割づくりを行なうとともに、体系的・系統的なキャリア教育の実践を試みている。

(2) 職業や社会とのかかわりを重視した自己の生き方・あり方学習の推進

多様化する生徒の進路、興味・関心に対応し、生徒が主体的に能力・適性や個性を伸ばさせる学びを展開する場として期待され登場したのが総合学科である。しかしながら、単なるひとよがりの、あるいは、社会や職業とのかかわりを欠いた科目選択（時間割づくり）やキャリア教育（将来設計、自己のあり方・生き方学習）では、将来を見通したとき、有為な職業人・社会人として、必要な能力・適性や個性を伸ばし、それを発揮する事はできない。

本校総合学科では、単なる個人の興味本位に基づいた科目選択（時間割づくり）や将来設計・進路計画に留まることなく、社会や職業とのかかわりの中での自己の生き方・在り方や社会における役割を意識したキャリア教育を推進するように努めている。このため、地域社会と連携した学習活動及び本学科の強みでもある教科連携型学習活動を生かして、現在の学習と将来の自己のあり方を社会や職業とのかかわりの中で意識させる学習活動を大切にしている。

5 教育課程の概要

本校総合学科の教育課程の概要は次のとおり。

総合学科の教育課程は、原則履修科目、必履修科目、系列選択科目、自由選択科目、総合的な学習の時間及び特別活動から構成されている。

- (1) 原則履修科目は、全国の総合学科の生徒が共通に必ず履修する科目で、「産業社会と人間」である。
- (2) 必履修科目は、全国の高校生が共通に必ず履修する科目である。
- (3) 系列選択科目は、学習内容や専門性からみて体系化された科目である。
- (4) 自由選択科目は系列選択科目以外の選択科目で、幅広い知識を身に付けたり、発展的に内容を深めたりする科目である。
- (5) 総合的な学習の時間は、自分の進路を考えたり、教科横断的な学習など創意工夫を生かした学習をしたりする時間である。具体的には、「キャリア・スタディ」、「キャリア・レッスン」、「総合研究」である。
- (6) 特別活動は、ホームルーム活動、生徒会活動及び学校行事から構成されている。

【教育課程の全体像】

単位	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
1年次	産業 社会 と 人間	国語総合				世界史 A		現代 社会		数学Ⅰ				生物 基礎		体育		保 健	芸術Ⅰ (音・ 美・書 から1)		英語Ⅰ				家庭 基礎		情報 A		L H R	
2年次	C S ※	体育		保 健	選択科目で24単位 (必履修選択科目を含めて)																								L H R	
3年次	C L ※	総合 研究		体育		選択科目で24単位 (必履修選択科目を含めて)																								L H R

※「CS」は「キャリア・スタディ」の略。また、「CL」は「キャリア・レッスン」の略。

- ① 1年次の「産業社会と人間」を中心にして、将来設計や2・3年次の時間割づくり（科目選択）を行う。（2年次のCSで3年次の時間割を確定する。）
- ② 灰色で表示されているものは、全員が必ず履修する。
- ③ 2年次の24単位分は、自分で選択した科目を履修する。ただし、この中に国語、社会、理科、英語の必修選択を必ず含める。
- ④ 3年次の24単位分は、自分で選択した科目を履修する。この中に国語の必修選択を必ず含める。

【設置系列と学習内容】

たくさんの種類の科目を開設している総合学科では、それぞれの科目をグループ化して、科目の性格（人文・社会科学系、自然科学系、福祉系など）がわかるようにしている。学習内容に応じて科目を分類し、分類された科目を収納してある「箱」を系列という。本校は6つの「箱」（系列）が準備されている。系列は科目選択をする際の目安であり、どれか一つの箱を選ぶ「コース制」とは異なる。したがって、生徒が選択するのは、一つ一つの科目であって、系列ではない。時間割を作成（科目選択）するとき、自分の進路希望に関わる系列の科目を軸に選ぶ。また、関連性のある系列を集めて分野と呼んでいる。

【本校の設置している分野と系列】

分野の名称	系列の名称	学 習 内 容
アカデミック分野	文化アカデミー	社会文化と人間の関わりを学びます
	サイエンスアカデミー	自然科学と人間の関わりを学びます
プラクティカル分野	バイオ・環境テクノ	農業・バイオテクノロジー・環境、土木・建築・造園等を学びます
	情報ビジネス	商業・情報等を学びます
ライフデザイン分野	スポーツ健康	スポーツ、福祉、家政等を学びます
	芸術デザイン	芸術（音楽・美術・書道）、服飾等を学びます

6 キャリア教育の全体像

本校におけるキャリア教育の核になる学習活動は次のとおりである。

実施年次	科 目 名 等	学習量等
1 年次	<u>産業社会と人間</u> （授業科目） 職場体験学習 県内上級学校・企業等見学（校外研修Ⅰ）	2 単位・通年・木曜日 5、6 限 主に夏期休業中実施 秋期集中実施
2 年次	<u>キャリア・スタディ</u> （総合的な学習の時間） 進路探求（就業体験と進学研究） 県外上級学校・企業等見学（校外研修Ⅱ）	1 単位・通年・木曜日 5 限 8 から 12 月に実施 秋期集中実施
3 年次	<u>キャリア・レッスン</u> （総合的な学習の時間） ・ 職業探求コース ・ 学問探求コース ・ 専門探求コース	1 単位・通年・木曜日 5 限
	<u>総合研究</u> （総合的な学習の時間）	2 単位・通年・時間割組込

7 各学習活動の目標、ねらい及び学習項目

1 年次「産業社会と人間」	
目 標	① 自己理解と肯定的自己受容を図る。 ② 様々な職業・学問を理解し、選択基準としての職業観・勤労観の確立を図る。 ③ 将来設計の立案とライフプランを描く。 ④ 適切な履修計画を作成する。
ねらい	① 他者との関係において自己の能力・適性、興味・関心等を追求し、自分の良さや優れた個性についての考察を深める学習をとおして、肯定的な自己受容を促がし、意欲的に高校生活を送ろうとする態度を醸成する。 ② 将来の職業人として要求される能力・資質（人間関係形成能力、意思決定能力、将来設計能力、情報活用能力など）を理解し、産業社会の発展に貢献できる基本的態度を醸成する。 ③ 産業社会、職業及び職業生活・社会生活の現状・課題とこれを支える学び（学問）の重要性を認識する学習をとおして、生涯にわたって学習を積み重ねようとする自己教育力の育成を図る。
学習項目	①自己理解・自己受容 ②社会の理解 ③職場体験・職業理解 ④学問理解 ⑤上級学校の理解 ⑥ライフプラン ⑦履修計画 ⑧学習発表会

2 年次「キャリア・スタディ」	
目 標	<p>① 自・他の理解を深め、自・他の尊厳を認識するとともに、肯定的自己受容とを確立する。</p> <p>② 1 年次に描いた将来設計・進路設計について、幅広い視点をもって考えを深め、目標の妥当性や現実とのギャップを確認し、課題を明らかにしながら、目標達成のための具体的筋道・方策をデザインするとともに、具体的進路目標の深化を図る。</p> <p>③ 3 年次の履修計画について、再確認を行い、適切な履修計画を作成する。</p> <p>④ 3 年次の「総合研究」の準備を行う。(調査・方法・研究の仕方、社会的・科学的課題の追求、テーマ設定)</p>
ねらい	<p>① 自・他の理解を深め、肯定的な自己認識と自他の尊厳を確立することにより、学校生活における自己の役割・責任を自覚し、他者と協調して充実した高校生活を築くことをとおして、職業生活や社会生活で必要とされる資質・能力の伸長を図る。</p> <p>② 進路目標と現実・課題の理解、目標達成の方策の検討及び履修計画の吟味をとおして、学習の動機付けを強め、意欲的な学校生活を送ろうとする態度を醸成する。</p> <p>③ 一人ひとりが進路に関する事項、2 年次での学習領域に関する事項及び興味・関心のある事項について、研究テーマを設定することにより、社会や学問についての課題を理解し、進んで課題解決を図ろうとする基礎的・基本的な能力・態度を育成する。</p>
学習項目	①自己理解・自己受容の深化 ②社会・職業理解、社会的諸課題の理解 ③学問・上級学校理解、科学的諸課題の理解 ④就業体験 ⑤履修計画 ⑥学習発表会

3 年次「キャリア・レッスン」	
目 標	<p>① 自己理解と肯定的自己受容を踏まえて、ライフプランと具体的進路目標を再確認(吟味)し、進路先を決定する。</p> <p>② ライフプランと具体的進路目標の実現のため、描いた方策に沿って、一人ひとりの進路実現を図る。</p>
ねらい	<p>① 1 年次から積み重ねてきた自己理解と肯定的自己理解を踏まえて、自己のライフプランを振り返り、具体的進路目標を確定することをとおして、進路実現を図ろうとする意欲と態度を醸成する。</p> <p>② 進路目標を達成する過程をとおして、将来の社会における自己の役割を意識させ、自らの将来を切り開くとともに、社会の発展に寄与しようとする能力・態度を醸成する。</p>
学習項目	<p>【職業探求コース】(就職希望)</p> <p>①進路情勢の理解 ②内定と入社までの流れ ③実践力の養成(志願理由書・履歴書・小論文・作文・面接) ④社会人の一般教養、社会常識</p> <p>【学問探求コース】(専門学校を除く進学希望)</p> <p>①進路情勢の理解 ②入試と入学までの流れ ③実践力の養成(志願理由書・小論文・作文・面接) ④学生としての教養・基礎学力</p> <p>【専門探求コース】(専門学校希望)</p> <p>①進路情勢の理解 ②入試と入学までの流れ ③実践力の養成(志願理由書・小論文・作文・面接) ④専門学校生としての教養・基礎学力</p>

3 年次「総合研究」	
目 標	<p>① 一人ひとりが進路に関する事項、2 年次での学習領域に関する事項及び興味・関心のある事項について、疑問に感じていることやさらに深めたい課題を研究テーマにして、テーマ追求学習（課題解決学習）を行い、所定の書式にしたがって報告書等を作成する</p> <p>② テーマ追求学習をととして、情報活用能力、思考力・分析力、意思決定能力、人間関係形成力等を身につける。</p>
ねらい	<p>① 一人ひとりが主体的に課題を設定し、追求の手立てを立案し、実行し、評価・考察を行う学習をととして、課題解決能力を育成するとともに継続して学習・調査・研究に志す態度（知識基盤社会・生涯学習社会における自己教育力の獲得）を醸成する。</p> <p>② テーマ追求学習をととして、自己のあり方・生き方や社会の課題を認識し、自己の役割を意識した積極的な社会参画と社会における諸課題の改善を図ろうとする能力・態度を醸成する。</p> <p>③ 教科学習で習得した知識・技能を関連付け、学習の深化・総合化を図るとともに、卒業後の職場や進学先での働きや学びの動機付けを図る。</p>
学習項目	<p>①一人ひとりがテーマを設定した研究活動（調査、聞き取り、実験・観察、創作・製作・実習、体験活動・現場実習） ②報告書の作成 ③学習発表会</p>

8 活動の様子



高校生活の目標を発表



社会人の講話を聴講



科目選択ガイダンス



上級学校の見学



上級学校見学の報告



上級学校見学のまとめ



職業調べの発表



職場体験学習





ライフプランクラス発表



「産業社会と人間」学習発表会（丸子文化会館）



県外大学見学



県外企業県学



上級学校体験授業



校外研修Ⅱの報告会



総合研究の事前研修



ライフランナーによる将来設計



企業の秘書課の方による礼法指導



企業の人事担当者によるグループワーク
（テーマ：企業が求める人間像）



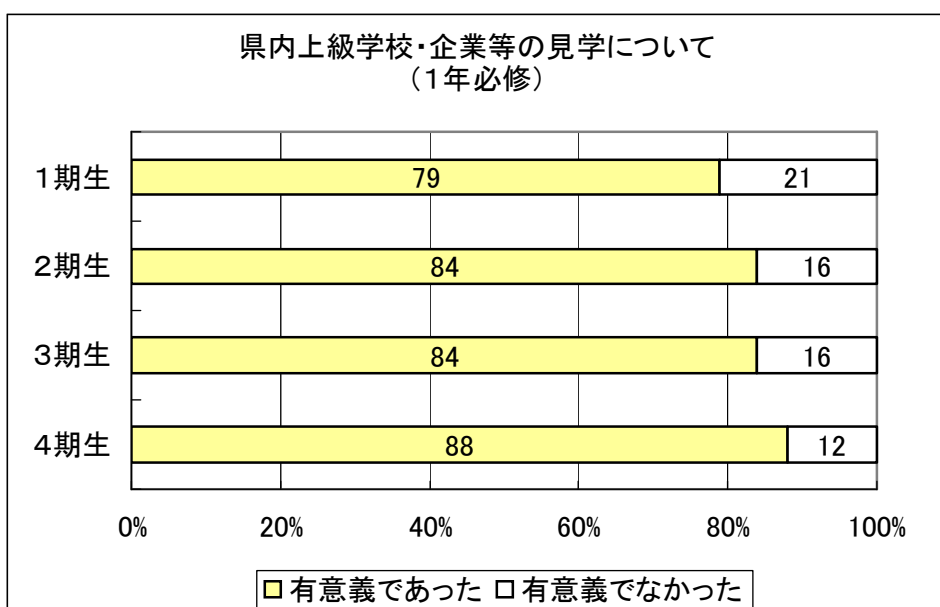
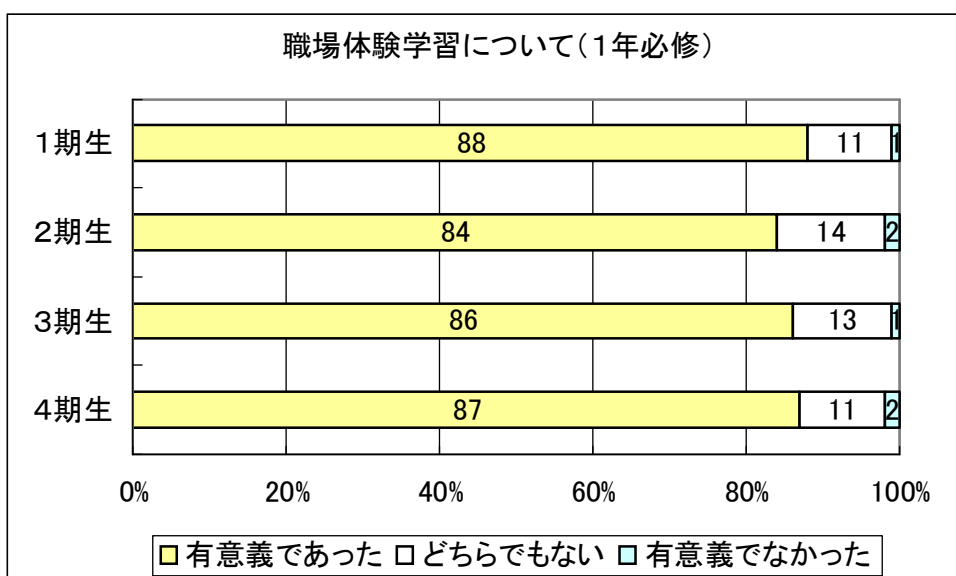
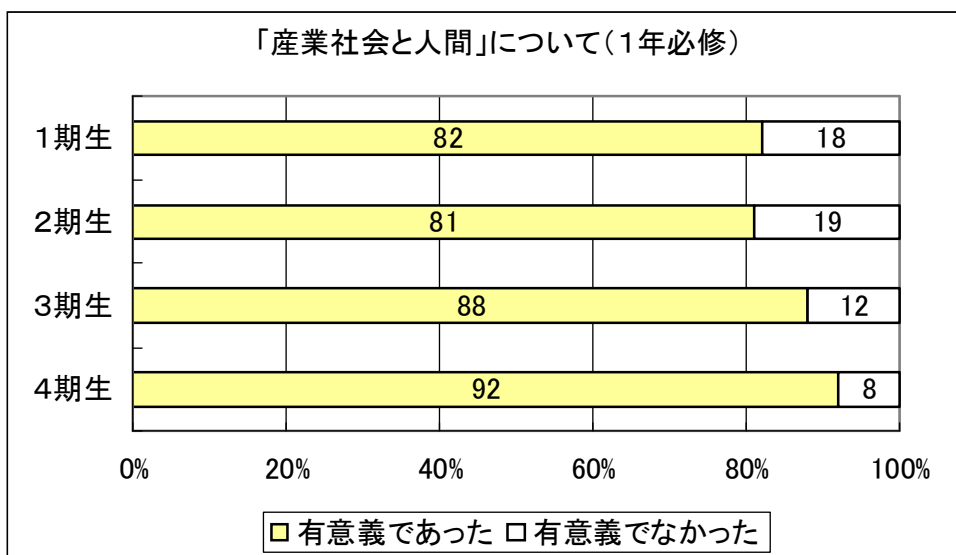
卒業生による進路講話

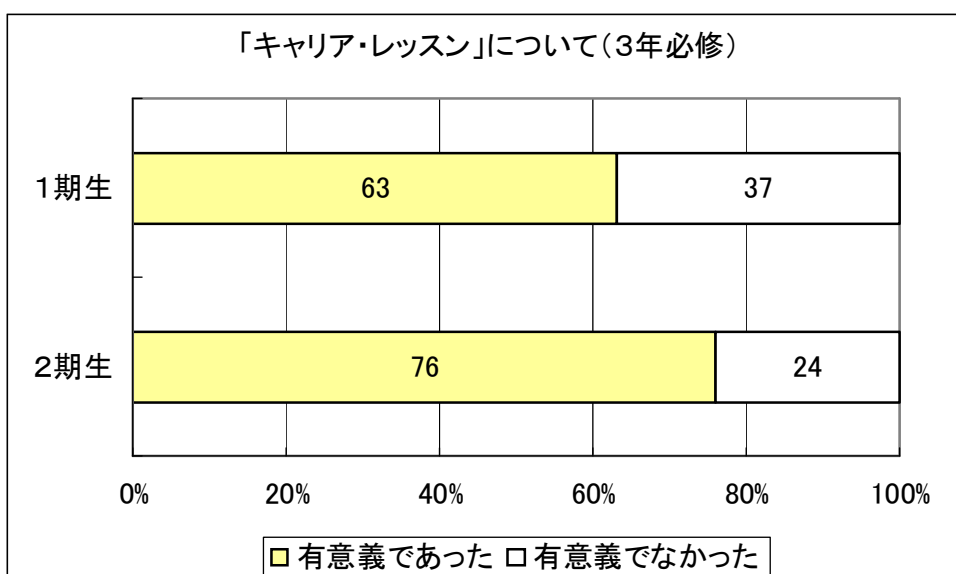
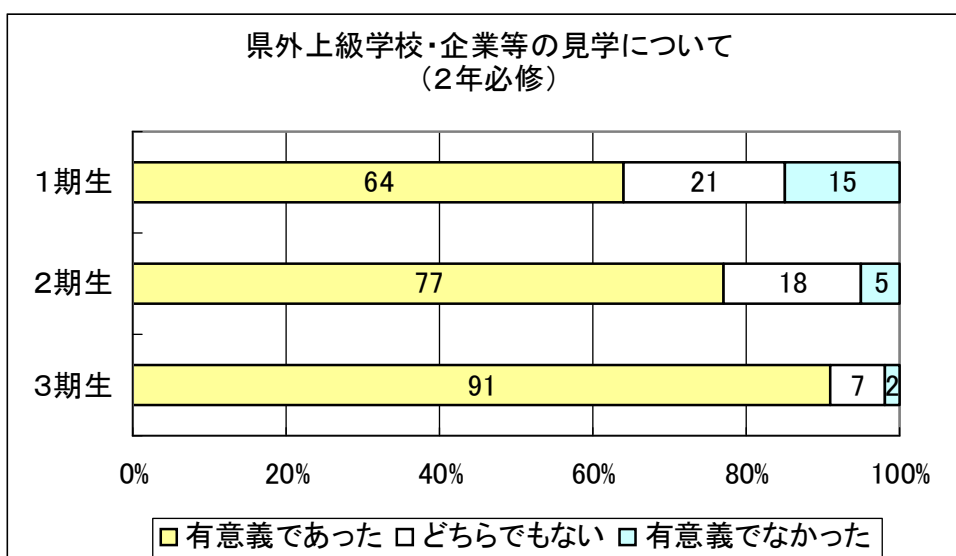
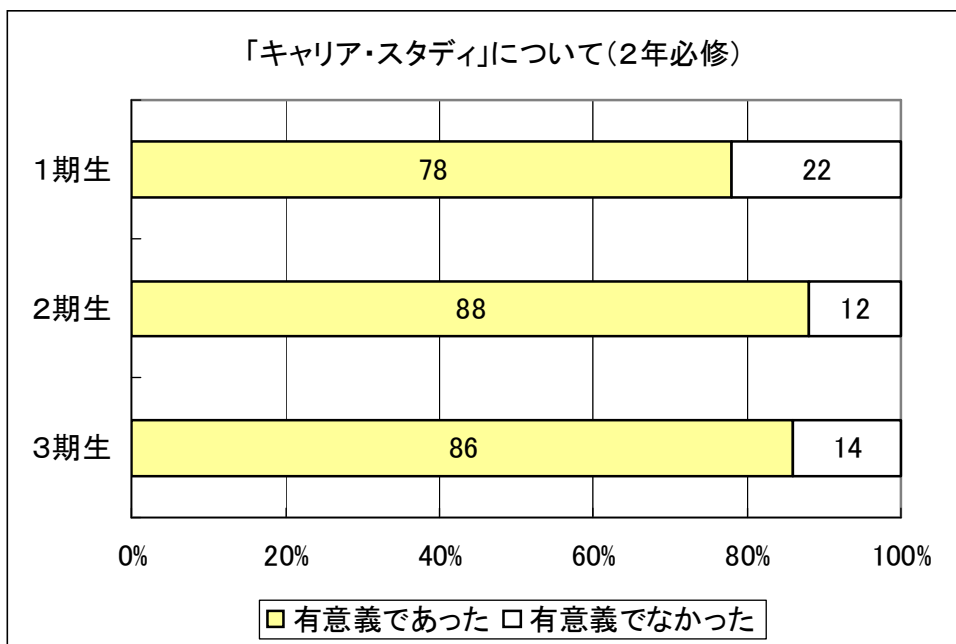


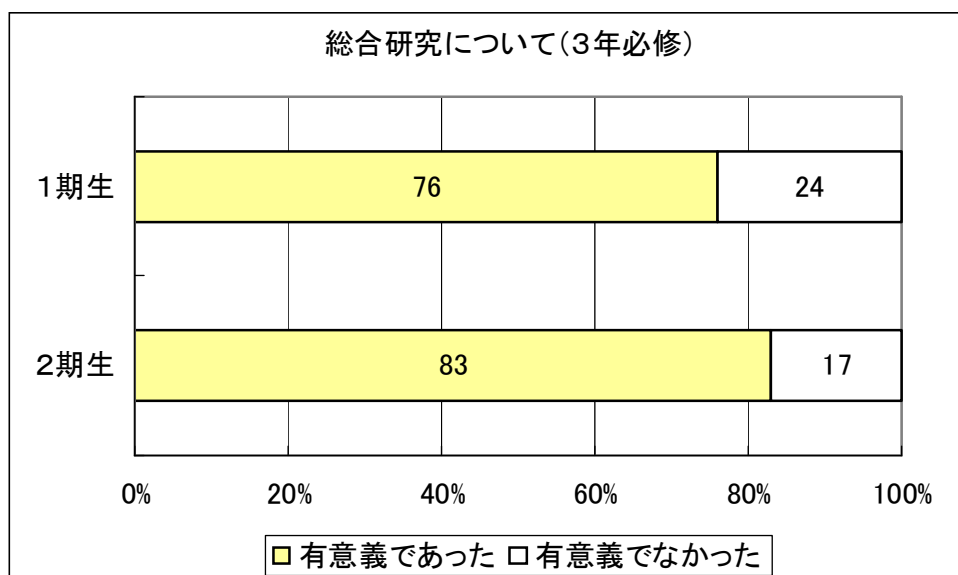
「総合研究発表会」

9 キャリア教育の評価

(1) グラフで見るキャリア教育の評価







(2) 記述で見るキャリア教育の評価 (主なものを抜粋)

- ① 「産業社会と人間」という総合学科独特の授業について (1年必修)
 - 様々な人の話を聞くことで、自分自身を見つめ直すことができた。
 - 自分の考えとは違う意見があり、考えるのが楽しかった。
 - 職業調べを通して将来の夢と向き合うことが出来た。最後はプレゼンが出来てよかった。
- ② 「職場体験学習」について (1年必修)
 - 職場体験をとおして、仕事の大変さや、やりがい、楽しさを学ぶことが出来た。この気持ちを忘れずに2年からの授業に生かし、将来の仕事に役立つようにしたい。
 - 将来、就きたい職業ではない仕事を体験してみて、とても参考になった。
 - 体験先に申し込んだり、打ち合わせをしたり、体験をしたりと、人間性やコミュニケーション能力を高めることにつながったと思う。
- ③ 「職場体験学習」(1年必修)の体験先担当者の感想
 - 将来の希望もしっかりと持っており頼もしく感じた。確実な作業をしていて安心した。これからも地域の産業に関心を持ってほしい。
 - 挨拶もきちんとできていました。仕事はだいぶ厳しかったようですが、いわれた事を一生懸命に頑張ってくれました。きっと疲れたと思います。何度もこういう機会を設けてあげると、仕事について具体的なイメージが持てていいと思います。
 - 動作も言葉遣いもきびきびしていて、近年まれにみる好生徒だった。これからもスポーツ・勉強に頑張ってもらいたい。将来どんな仕事についても立派にやれる生徒だと思った。
- ④ 「校外研修Ⅰ (県内上級学校見学)」について (1年必修)
 - 授業風景や学習内容を近くで見て、こういう事を学んでいるのかとわかり、進みたい方向が定まった。
 - 1年生の頃から進路をしっかりと考えられてよかった。
 - 今回の研修では、学校案内や調べただけではわからないことが沢山学べた。夢に対して大きな参考になった。
- ⑤ 「キャリア・スタディ」という総合学科独特の授業について (2年必修)
 - 産社のつながりで、進路を考えるのにはとてもよかった。
 - いろいろな生き方をしている人たちの話を聞くことができ進路を考える参考になった。
 - 進路で自分が何をやって、将来は何やっていくのかを考えられたことがよかった。
- ⑥ 「校外研修Ⅱ (県外上級学校・企業等見学)」について (2年必修)
 - 学生さんがみんなしっかりしていた。挨拶もすばらしくとても感動しました。私もしっか

り挨拶ができる人になりたいと思うようになりました。

- コース別研修をすることによって、勉強の意欲が高まって良かった。
- 広島での平和学習では、改めて戦争の悲惨さを知った。平和が維持できるように、自分に出ることを見つけたいと思った。
- ⑦ 「キャリア・レッスン」という総合学科独特の授業について（３年必修）
 - 面接はどのようなものか、会社や学校はどんな人を必要としているかを学んだ。
 - 就職に向けての学習ができた。進路に関する勉強ができてよかった。
 - 進学のことや、志望理由の書き方などとても役に立った。
- ⑧ 「総合研究」という総合学科独特の授業について（３年必修）
 - ３年間で一番力がはいった授業だった。
 - 自分の好きなことについて調べることで、より知識が深まった。
 - 研究することの大切さや学び方がわかった。

10 地域と連携した学習活動について

（１）上田市立丸子中央小学校との交流授業の実施（今年度から）

① 趣旨

小学生には農業及び植物栽培に対する科学的・論理的理解の深まりを、高校生には、先生役の立場として、児童とともに学習する事により、学習内容をより深化させ、社会性・指導性・科学性を高めることを期待して、小・高交流授業を実施している。

② 交流児童・生徒

- 丸子中央小学校 ５年生１組（３１名）・２組（３０名）・３組（３１名）
- 丸子修学館高校 科目「農業科学基礎」２年次選択生（８名）

③ 内容等

大根と稲を教材とした栽培学習を行なっている。

④ 授業の様子



交流開始式



小学生と高校生がお田植えをしている様子



（２）介護老人福祉施設「ベルポートまるこ」との連携事業の実施

～農業科、工業科、家庭科及び福祉科の教科連携学習を活かした地域連携事業～
（農業・福祉は平成２２年度より、工業・家庭は今年度より実施）

① 趣旨

少子高齢化社会の進展を踏まえ、農業、工業、家庭及び福祉を学習する生徒が、それぞれの得意分野・学習成果を活かして連携し、地域の福祉施設と交流することにより、福祉に関する基本的・基礎的な知識・教養を理解させるとともに、地域社会の福祉や振興に貢献しようとする能力と態度を醸成する。

② 対象生徒

- 講座「農業科学基礎」選択生（８名）
- 講座「工業課題研究」選択生（２４名）
- 講座「被服製作」選択生（２０名）、講座「生活教養」（１６名）
- 講座「社会福祉実習」選択生（１３名）

③ 連携施設

④ 事業内容

対 象	内 容
社会福祉実習	ユニット別交流会、階別交流会及び合同交流会
農業科学基礎	花壇等の整備、合同交流会
工業課題研究	樹木、庭園等の整備、合同交流会
被服製作 生活教養	被服製作技術を生かした小物の製作、合同交流会

⑤ 活動の様子



各教科の得意分野を生かして、施設の方々と花壇づくり、運動会など交流を行なっている

(3) 丸子地域ゆかりの「義仲桜」を守る地域貢献事業

〔義仲桜：上田市（旧丸子町）天然記念物指定 枝垂性エドヒガンザクラ〕

① 趣旨

上田市中丸子御獄堂の岩谷堂観音境内には、木曾義仲が戦勝祈願に植えたと伝えられる樹齢約800年のエドヒガンザクラ（地元では義仲桜と呼ばれ親しまれている）がある。しかしながら、長い年輪を重ねてきており、近年は木が弱って存命が危ぶまれる状況になってきた。そこで、農業を学ぶ生徒がバイオテクノロジーを活用して義仲桜の増殖（遺伝的に義仲桜を継承する）を行い、丸子地域ゆかりの伝統ある義仲桜を守る地域貢献活動を行っている。

② 対象生徒

○ 講座「植物バイオテクノロジー」選択生（12名）

③ 内容

農業学習（接ぎ木技術、発芽促進技術等）を生かして、義仲桜の増殖を行う。

④ 活動の様子



接ぎ木苗の養成

地元へ植樹

「さくら功労者」受賞を上田市長へ報告

(4) 桑を活用した地域活性化の挑戦（NPO法人エスリンとの地域連携事業）

① 趣旨

上小地域は、早くから蚕糸業が発達した地である。また、本地域には立岩和紙（現長和町「和紙の里」）として300年の歴史を継承する文化がある。当時、桑を材料とした桑紙も盛んに使われ、桑は生活に深く密着していた。時代の変遷により、今では養蚕業・桑畑は姿を消すこととなったが、このような歴史的背景をもつ地域に立地する本校では、四倍体フィラス・ララベリー・ポップベリーの桑を果実採取用品種として導入し、桑を活用した地域振興学習を行なっている。

- ② 対象生徒 講座「生物活用」選択生（１４名）
- ③ 内容 ○ 桑の実を利用した食品の開発 ○ 桑の樹皮を利用した和紙の製作
○ 耕作放棄地に桑を植え、地域活性化への挑戦
- ④ 活動の様子



４倍体品種



桑紙づくり



耕作放棄地へ桑を植樹

（５）生徒参画型地域公開講座の実践

- ① 趣旨 商業の専門学習の成果を生かして、地域の方々とともに情報発信の技術を学ぶ事により、専門学習の深化とコミュニケーション能力等を育成する。
- ② 受講者 丸子地域の方々 ③ 対象生徒 文書デザインを学ぶ生徒
- ④ 内容 ホームページの作成 ⑤ 活動の様子

（６）模擬株式会社の運営と教科横断的取り組みによる販売実習（今年度から）

- ① 趣旨
生徒自らが模擬株式会社の設立から計画、仕入、販売、決算までの一連の流れを実践することで、ビジネスの面白さ、大変さを体験させ、商業に関する知識や技術を深める。また、総合学科の特性を活かし、農業科・家庭科と連携した商品開発を行うなど、教科の枠組みを越えた横断的な学習を通じ、広い視野・幅広い知識を持った生徒の育成を目指す。
- ② 対象生徒
○ マーケティング受講生 １７名
- ③ 内容
○ 吹奏楽部の「定期演奏会」時に東日本大震災チャリティーショップを開催
○ 農業科の栽培した生鮮野菜、花の苗、家庭科の製作したバッグ等を販売
○ 収益を福島県原町高校へ寄付（６月１８日の野球部交流試合実施時）
○ 丸子ドドンコ祭、げんきまるこ・産業フェスタ、チャレンジショップ出店予定
- ④ 活動の様子



各教科学習で出来た製品や収穫物を、商業を学ぶ生徒が企画・主導して、他の教科を学ぶ生徒とともに販売実習を行っている様子

（７）松本大学白戸ゼミナールと福祉科との連携事業（今年度から）

- ① 趣旨
生活ニーズの調査方法等、松本大学の方々と連携して行うことにより、総合研究（卒業研究）で必要とされる調査・研究方法を習得させ、幅広く質の高い福祉の専門学習を保障する。
- ② 対象生徒
講座「総合研究 福祉」選択生 ５名
- ③ 松本大学白戸ゼミナール ４年生 ２０名

④ 活動の様子



大学生からの講義



大学生とともに地域へ出て、地域の方々と触れ合っている



(7) 鹿教湯里山セラピー公園整備・再生事業

① 趣旨

県、市の集団間伐事業によって地域に親しまれてきた里山をセラピー公園として整備し、地元や観光客の憩いの場、交流の場として、里山を再生し地域、温泉街の活性化につなげる。

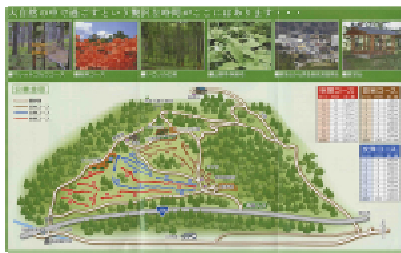
② 対象生徒

○ 講座 テクノリサーチ・工業総合研究選択生 3年生 25名

③ 活動内容

- 全長3kmの遊歩道の地形測量 ○ 地形実測図を基に公園全体の案内看板の作成
- 遊歩道の整備（間伐材を用いた残材チップ敷きの遊歩道）
- マレットコースの案内看板製作・遊歩道案内標識製作、丸太ベンチの製作

④ 活動の様子



実測図を基にした公園案内パンフレット



遊歩道案内板製作



丸太ベンチ製作

(8) 箱山城・桜ロード整備事業

① 趣旨

平成20年度、上田市わが町魅力アップ応援事業としてスタートした里山再生事業に、地域住民（箱山城・桜ロードの会）の方々と本校生が連携して取り組み、地元の里山再生を目指している。

② 対象生徒

○ 講座 テクノリサーチ・工業総合研究選択生 3年生 25名

③ 活動内容

○ 伐採・整備 ○ 地形測量 ○ 箱山城への桜の移植 ○ 丸太ベンチの製作・設置 ○ 案内板・看板作り

④ 活動の様子



赤松の間伐



桜の定植



箱山城ジオラマ製作

(9) 特色ある生徒会活動について

- ① 丸子地域7校が連携する「青少年ネットワーク(丸子地域小中高7校)」の中心として、「あいさつ運動」、「ボランティア活動」、「スマイルステーションプロジェクト」及び「クリーン作戦」の4つの取り組みを行っている。
- ② 東日本大震災復興支援活動 「丸修お助け隊」(チャリティーコンサート、バザー、被災地の野球部を招待し、交流激励試合ほか)

1.1 キャリア教育の成果と今後の課題

(1) ライフプランや高校卒業後の具体的進路目標を確立することについて

大部分の生徒は1年次より将来の進路を見つめており、キャリア教育の成果がみえる。総合学科開設以前の学科では、3年になってはじめて自分の進路を意識し、受験先選び中心の進路学習の傾向が強かったことを考えると大きな前進であると考えている。その一方で、1年次の年度末に至っても約10%程度(30名前後)の生徒が進路を決めかねている現状もある。これらの生徒を含めて、2・3年次のキャリア教育でのフォローが重要である。また、ライフプランについては、ほとんどの生徒が前向きに将来の職業や自分の生き方を作文形式でまとめている。今後は、各自が描いたライフプランの具現化に向かって、生徒個々にとってより満足のいく支援をすることが重要である。なお、前向きなライフデザインを描くことができなかった若干名の生徒の支援も課題である。

(2) 社会、職業、働くこと、上級学校、学ぶことを理解する学習について

職場体験学習、企業・上級学校見学、社会人講師の講話等の取り組みは、キャリア教育における体験活動の重要な柱であり、生徒の意識調査結果からみても有意義なものである。特に職場体験学習や校外研修に代表される校外学習では、学校では教えることが難しい社会人としての資質や心構えを理解したり、学びに対する探究心が喚起されたりしており、生徒自身の内面の変化やキャリア形成・職業観・勤労観の確立にとって、効果的な学習活動であると考えている。今後は、生徒の将来設計や履修計画の作成に繋がる強い意識付けを持って、これらの体験学習に臨むことができるよう事前・事後の学習指導を工夫・改善する必要があると考える。

また、体験先との連絡・調整等は大変な時間と労力を要する作業であり、蓄積したノウハウを生かして効率的な運営を試みることを課題である。

(3) 「総合研究」における調査・研究活動について

生徒の意識調査結果から「総合研究」の学習活動をとらえて、学ぶ喜びや充実感・達成感を味わい、卒業後の進路先での仕事や学び・研究に向かって、動機付けがなされていることがわかる。「総合研究」学習発表会では、1年次の「産業社会と人間」学習発表会の成果を歴然と上回る発表会が行われ、将来設計能力・意思決定能力・情報活用能力・人間関係形成能力等の伸長に効果的に作用していることが窺えた。

今後の課題としては、より質の高い調査・研究活動、地域と密着したテーマ設定、一部生徒に見られるインターネットに過度に依存した研究活動を転換することなどである。

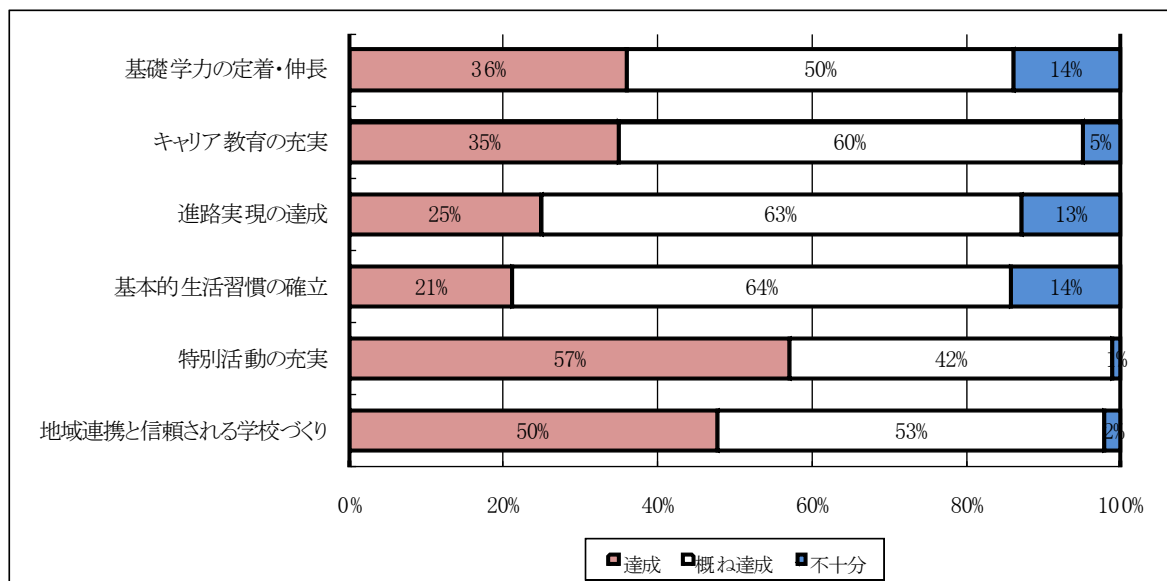
(4) 指導体制について

3年間におけるキャリア教育の枠組みは整いつつある。しかし、個々の単位における教材開発や指導方法等については、まだまだ不十分であるとともに未知の可能性をたくさん秘めている。特に自己理解・自己受容に関しては、キャリアカウンセリングと連携した専門的知見に基づいた指導方法等の確立が必要である。

今後は教材開発と指導方法・スキルの向上に向けて取り組みたい。また、キャリア教育は、手間ひまのかかる教育活動であり、教員数の確保などとともに、研修面の充実も喫緊の課題である。

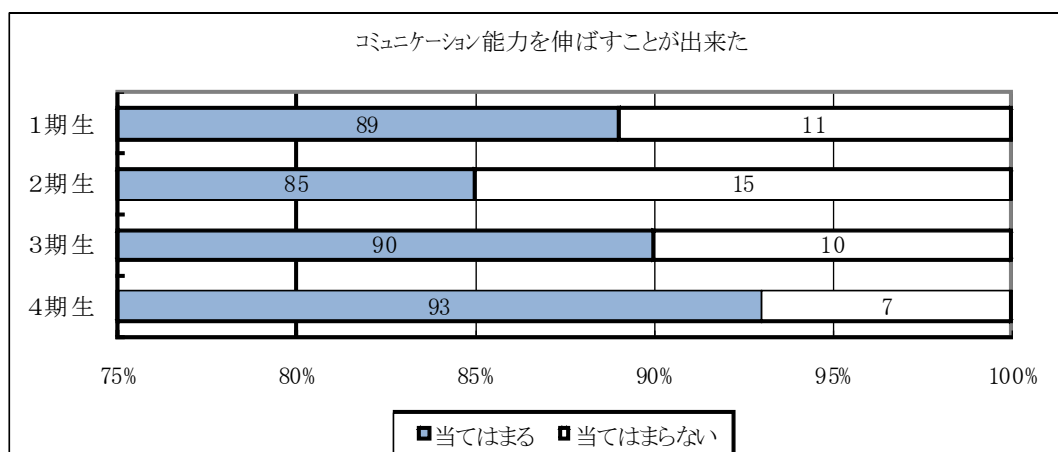
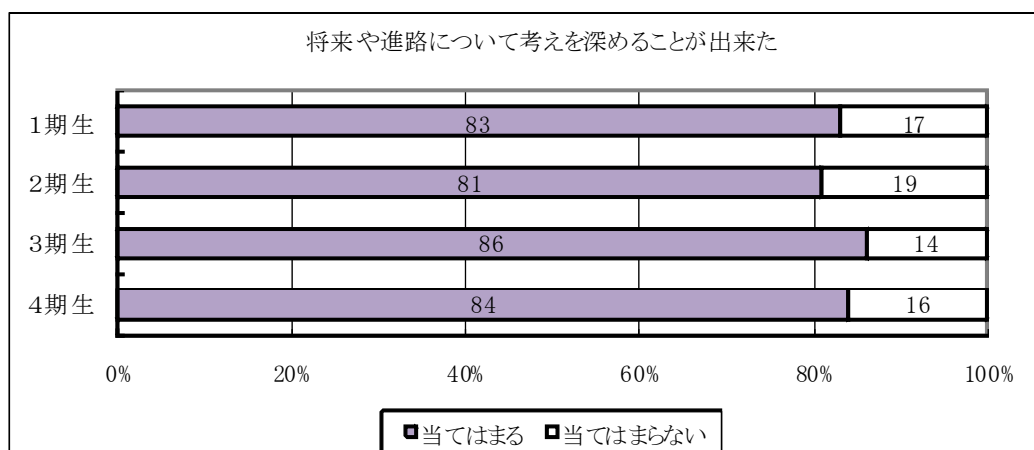
補助資料

1 教職員による内部評価結果（平成22年度 主な教育目標に対する教職員の認識）

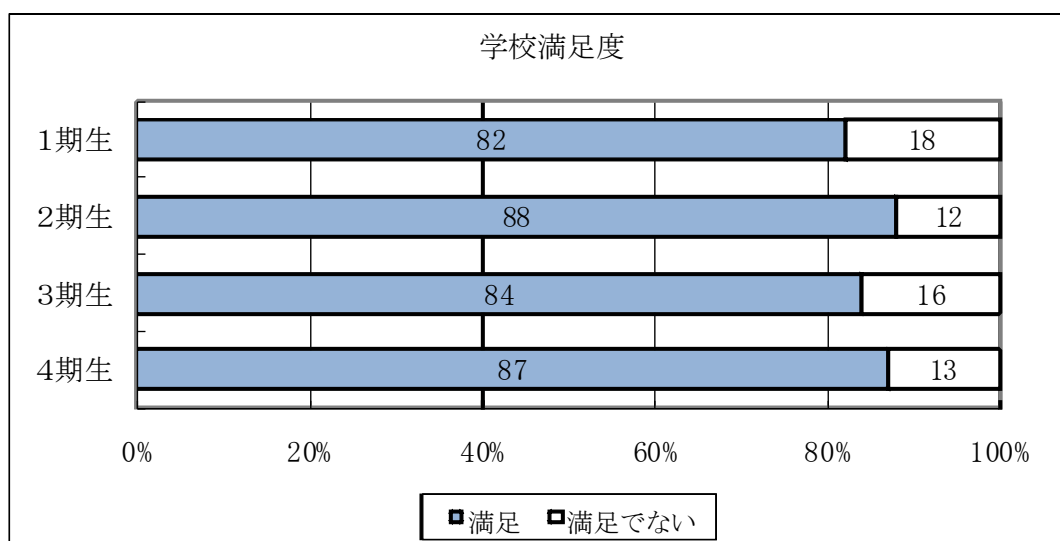


2 生徒による学校評価・意識調査結果（各年度末実施、全生徒対象）

（1）学習活動について



(2) 学校満足度について



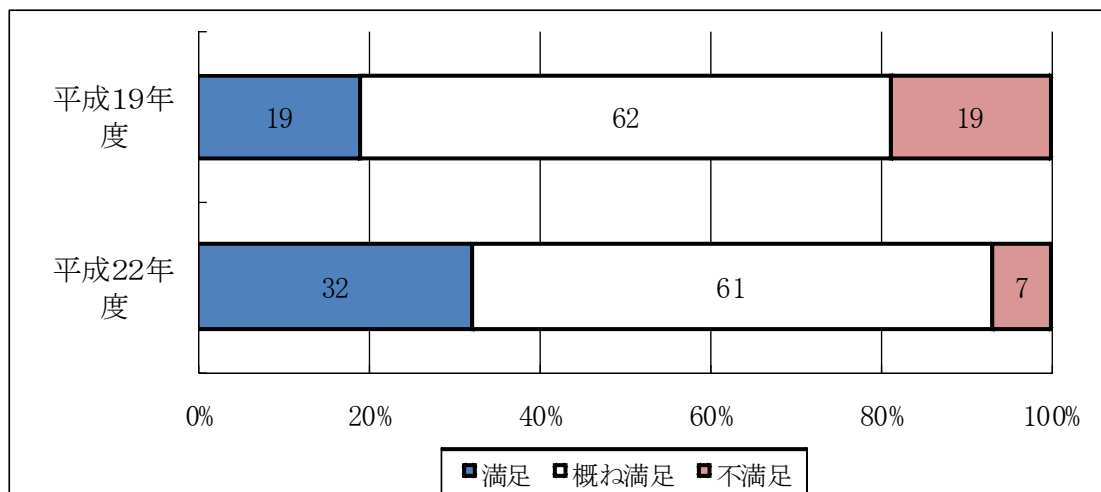
(3) 学校生活や総合学科に対する主な感想等

- 進路についてたくさん考える時間があって、まだ進路について決めていない自分にとっては、とてもいい勉強・参考になった。
- 自分の学びたい科目が選べ、進路にあった時間割を作ることができるが、本当に何をしたいのかを考えないといけないので、ある面では大変な学科だと思った。
- 自分の手で未来を築いていく学科、その分責任が重い学科、自分の将来を真剣に考えるきっかけを与えてくれる学科だと思った。

3 保護者による学校評価結果（各年度10月実施）

（回答者数：H19・82名、H20・146名、H21・174名、H22・330名）

(1) キャリア教育について



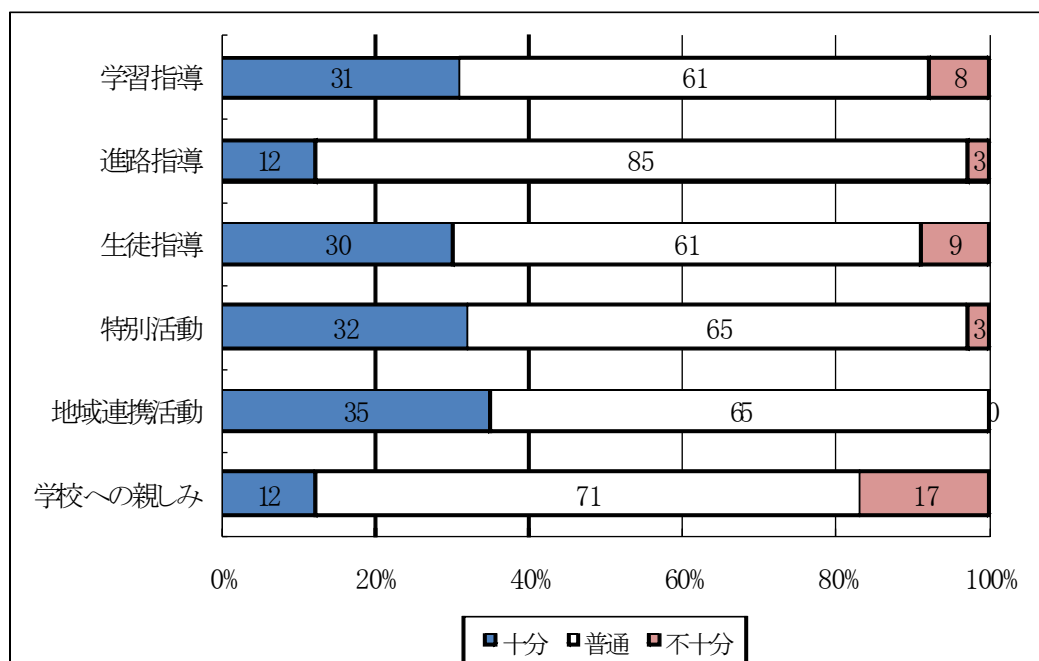
4 学校外の方々による評価結果

(1) 学校評議員の方々の主な意見等（平成20・21・22年度）

- 「総合研究」発表会、「産業社会と人間」学習発表会は、胸を張り堂々とした素晴らしい発表であった。「産業社会と人間」等の指導には先生方の力量や努力、熱意が必要だと思うので今後とも宜しくお願いしたい。
- 「産業社会と人間」と「総合研究」の発表を見させて頂いた。一年生が一年間でライフスタイルを考えるようになったことは素晴らしいと思った。先生方のご苦勞を感じた。

- 「産業社会と人間」と「総合研究」の発表を見て、表現力がよく育ったと感じた。息子が3年間この学校で学んで、着眼点が良くなった。偏差値教育でなく人間教育をしてもらった。

(2) 地域住民の評価（平成22年1月実施、中丸子住民18名より回答）



(3) 総合学科開設5周年記事来校者の主な感想等（平成23年5月28日実施）

- 普通高校では体験することができないことをたくさん体験することが出来ました。自分の学習成果を発表するプレゼンの場面がありました。生徒の頃からそういった場を与えられ、経験できる事はとても幸福なことだと思いました。
- 教師が生徒と一体となり、総合学科を発展、充実させている様子がわかるとともに、新たな伝統が築かれている様子がうかがわれた。
- 総合学科で学ぶ生徒の進路、将来に対する意識の高さに驚きました。自ら切り拓く（自分でつくる自分の未来）力強さを感じ、進路実現に向けてがんばってほしいと思います。自ら進みたいと思う道を見つけることの指導にかかる先生方のご苦労も多いことと思いますがどうかがんばってください。
- キャリア教育に関する授業では、生徒が真剣に自分の進路と向き合う姿勢が印象に残りました。学年が進むにつれて学習内容が深まっていると感じました。参考になる内容ばかりでした。
- キャリア教育の系統的な学習のあり方を、全学年同時に見学できたことで理解できました。総合学科の核心として機能していることと思います。
- 総合学科はすごく魅力的な学科だと思います。特に高校進学時において、自分の進みたい、学びたい道が自分自身で分かっている生徒にとっては、とても有効な学科であると思いました。是非、目的意識の強い生徒をどんどん伸ばしていくような教育を続けてほしいと思います。
- 幅広い生徒、学力、性格、希望など、総合学科は本当に幅広いと感じる。このような生徒を指導し、よりよき人生に導くことの大変さは想像を越えている。高校3年間で若い生徒の希望が膨らみ、社会に貢献できる人材を多く育てていただければと思います。
- 新しい教育システムの確立に尽力されている関係者の皆様の努力に敬意を表します。引き続き幅広い教育プログラムを提供していただき柔軟かつ個性的な人材の育成をお願いします。
- 総合学科開設以来、着実に成長の歩みを進めておられることに心から敬意を表します。昨今、キャリア教育の重要性が言われていますが、総合学科高校としての意義や果たすべき役割の大きさを感じます。系統的な様々な仕掛けを通じて、生徒の主体的な取り組みや生き方を支援し続けてもらいたいと思います。